

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内 九一

1 日 に ち	令和 6 年 8 月 7 日 (水)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	東京都八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号 八王子市役所
3 参 加 者	柴田雅也、若尾敏之、吉田企貴、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	オープンデータに係る取組について
5 主な内容	・オープンデータの取り組みの経緯 ・目的と期待する効果 ・現在の成果と課題 ・八王子 DX 推進計画 広域での取り組みについて ・八王子 DX 推進計画や八王子未来デザイン 2040 との関係性は
6 所感、提言事項、課題等	【柴田 雅也】 行政が持つ各種データの活用は、政策目的を明確化するためにも、合理的根拠（エビデンス）に基づいての政策立案においても重要であると考えます。 行政の各部署の持つデータを横断的に活用できる環境を整えることが、的確な施策を立ち上げることにつながり、財源が限られている自治体にとって重要である。 また、官民協働に留まらず、市民がまちづくりに取り組む場合や、民間事業者が新規事業を興す場合に、行政が持つデータを活用できる環境の整備を促進することは、市の発展を考えても、取り組むべき事案であると思う。 このような問題意識を持って、今回は八王子市のオープンデータに係る取り組みについて調査をした。 八王子市では、八王子デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画の施策の一つとして、オープンデータの促進に取り組んでいるが、その目的は、市役所が保有している活用可能性の高いデータがより多く公開されることにより、データを活用したまちづくりに寄与することであると認識できた。また、データの活用を一市単独で考えるのではなく、課題解決のために近隣市から成る広域でのデータ活用に取り組むために、5 市協定を締結して協力体制を構築する取り組みは、参考になった。そして、そのためには、公開データの標準化は大きな課題であると認識した。

【若尾 敏之】

東京都八王子市は、市制施行から 107 年を迎え、2015 年に東京都で初めて中核市に指定されています。人口は約 57 万人、市内には 21 の大学が立地する学園都市です。

オープンデータの取り組みが始まったのは、平成 25 年度八王子市地域情報化計画の推進によります。翌年オープンデータの推進に関するガイドラインが策定され、オープンデータのカタログページが公開されました。

目的と期待する効果は、3 点あります。「行政の透明性、信頼性の向上」「データの共有及び協働による地域課題の解決」「地域経済の活性化」です。行政が保有するデータを公開することで、住民が政策等に関して、十分な分析・判断を行うことが可能になります。また市民や企業等とデータ共有が図られることにより、官民協働による公共サービスの提供や、民間による創意工夫を活かした多様なサービスが提供されます。企業におけるデータの加工、分析等により、様々な新ビジネスの創出など、地域経済の活性化を図ることができます。

現在は、東京データプラットフォームデータ整備事業(TDPF)に参加し、公開ニーズの高い資料のデータ化を推進していくとともに、自治体標準オープンデータセットのデータフォーマットに準拠するためのデータの標準化を進めていく予定とのことです。しかし、市民生活の利便性向上や新たなビジネスの創出につながっている実感がないとのことで、せっかく取り組むオープンデータの公開が市民に浸透していないのは残念であると共に、オープンデータの取り扱いの難しさや、市民にどこまで浸透するのかが課題であると感じました。

【吉田 企貴】

八王子市では、オープンデータの広域対応についての先進事例を学びました。消防や廃棄物処理等における広域化は多治見市でも議論が始まっているものの、本来はオープンデータについても進めていくべきという視点は、極めて参考になりました。

【城處 裕二】

「オープンデータの取組」をメインテーマに視察させていただきました。

目的と期待する効果は、①『行政が保有するデータを公開することにより行政の透明性、信頼性の向上を図ること』、②『市民や企業とデータの共有が図られることにより、官民協働による公共サービスの提供や民間による多様なサービスの提供がなされ地域課題の解決手段とすること』、③『企業におけるデータの加工、分析等により、新しいビジネスの創出や企業活動の効率化が促され地域経済の活性化を図ること』です。

今後の課題として、データの標準化や近隣自治体との協力体制の構築等を挙げられました。目的を達成していく為には道半ばといった感想を持ちました。

直接のテーマではありませんが、本年 10 月から開設されるデジタルフロントスポット(本市という地区事務所)についてお聞きしました。デジタル技術を用い地区事務所の充実を図る取組です。今後の成果に大変興味を持ちました。本市にとっても大いに参考になると考えます。

【玉置真一】

「八王子市地域情報化計画アクションプラン」において、「情報利活用の推進」の一環として掲げた事業である「オープンデータの推進」について、検討を開始し、オープンデータを公開されています。

目的と期待する効果として、次の3点を挙げられました。

1 点目は、「行政の透明性、信頼性の向上」

行政が保有するデータを公開することで、住民が政策等に関して十分な分析・判断を行うことが可能となる。

2 点目は、「データの共有及び協働による地域課題の解決」

市民や企業等とデータ共有が図られることにより、官民協働による公共サービスの提供や、民間による創意工夫を活かした多様なサービスが提供され、厳しい財政状況の中、各種地域課題を解決する一つ的手段として有効となる。

3 点目は「地域経済の活性化」

企業におけるデータの加工、分析等により、様々な新ビジネスの創出や、企業活動の効率化が促され、地域経済の活性化が図ることができる。

公開したデータの更新など様々な課題があるとのことでしたが、多治見市のオープンデータの今後について大変参考になりました。

【加藤智章】

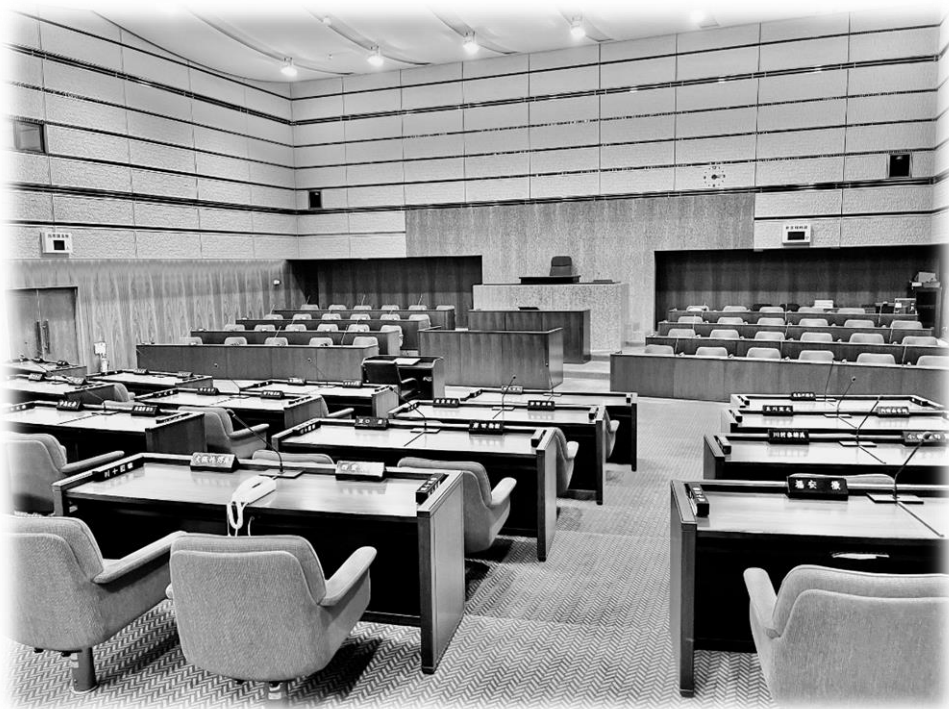
八王子市の取り組みは、データ活用によって地域経済を活性化させる一助となっております。

多治見市でも、オープンデータを用いたビジネス創出の可能性を模索することで、新たな産業を育成し、地域経済活力を高めることが期待されます。

八王子市のオープンデータに関する取り組みは、行政の透明性、市民参画、地域経済の活性化という点で大きな成果を上げています。多治見市においても、これらの取り組みを参考にし、オープンデータの充実を図ることで、より開かれた市政運営を実現できると考えられます。

今後、多治見市においても、具体的なデータ公開の範囲や利用促進について検討し、八王子市のような先進的な取り組みを導入していくことが望まれます。

7 写 真 等
※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。